

注: 太字は定期接種(一定の年齢、月齢で原則としてすべての子どもに接種)、細字は一部の特定対象者に接種。

予防接種種類	2m	3m	4m	12m	13m	15-23m	5-6y	11y	15-16y
BCG ^{*1} TB(tuberculosis)									
DPT(三種混合) ^{*2} Diphtheria,Pertussis,Tetanus	DTaPHibHep - IPV ^{*12} ①	DTaPHibHepIPV②	DTaPHibIPV ^{*12} ③		DTaPHibHepIPV④		DTaPIPV ^{*12} ⑤		DTaPIPV⑥
ポリオ ^{*3} Poliomyelitis	DTaPHibHep - IPV ^{*12} ①	DTaPHibHepIPV②	DTaPHibIPV ^{*12} ③		DTaPHibHepIPV④		DTaPIPV ^{*12} ⑤		DTaPIPV⑥
B型肝炎 ^{*4} Hepatitis B	DTaPHibHep - IPV ^{*12} ①	DTaPHibHepIPV②			DTaPHibHepIPV③				
Hib ^{*5} Haemophilus influenzae type b	DTaPHibHep - IPV ^{*12} ①	DTaPHibHepIPV②	DTaPHibIPV ^{*12} ③		DTaPHibHepIPV④				
肺炎球菌(小児用) ^{*6} Pneumococcus	PCV①		PCV②	PCV③					
ロタウイルス ^{*7} Rotavirus	RV①	RV②							
MMR ^{*8} Measles,Mumps,Rubella				MMRV ^{*13} ①		MMRV②			
水痘 Chickenpox (Varicella)				MMRV ^{*13} ①		MMRV②			
インフルエンザ Influenza				(慢性疾患児に)					
A型肝炎 ^{*9} Hepatitis A				(旅行者および特定リスクグループに)					
髄膜炎菌 ^{*10} Meningococcus					MenC-conj①				
日本脳炎 Japanese Encephalitis									
パピローマウイルス ^{*11} Human papillomavirus								HPVx2	

《以下は一般の方にも理解していただくために本図作成者が加えた説明です》

- *1 BCGは結核のリスクが低下した先進国で定期接種されていない国があります。一方、発展途上国の多くでは出生時に接種します。
- *2 日本ではDPTですが一般には"DTP"と表現されます。先進国では精製百日咳ワクチンを含むDTaP(わが国もDTaP)が、発展途上国では百日咳菌体ワクチンを含むDTwPワクチンが主流です。
- *3 ポリオワクチンには、経口生ワクチン(OPV)と、不活化ワクチン(IPV)とがあります。ほとんどの先進国ではIPVが主流になっています。わが国では2012年9月からIPVに切り替えられました。
- *4 WHO(世界保健機関)はB型肝炎ワクチンをすべての子どもに接種するように2004年に勧告し、現在では世界のほとんどの国で乳児期から定期接種に加えています。
- *5 Hib(Haemophilus influenzae type b:インフルエンザ菌b型)は乳幼児の細菌性髄膜炎の最も頻度の高い原因菌です。
- *6 肺炎球菌は乳幼児の細菌性髄膜炎の主要原因菌であり、肺炎や中耳炎の原因ともなります。乳児期からの接種は結合型肺炎球菌ワクチン(Pneumo-conj=PCV)です。
- *7 ロタウイルスは乳幼児の感染性胃腸炎の主要な原因ウイルスです。ロタウイルスワクチンはいずれも経口生ワクチンで2種類(ロタリックスとロタテック)が市販されています。
- *8 MMRワクチンは麻疹、おたふくかぜ、風疹の混合ワクチンです。世界中で広く使用されており、MRワクチン(麻疹+風疹)は少数派です。
- *9 A型肝炎は生の食べ物や飲み物を通じて経口感染するウイルス性肝炎です。食品衛生環境の不良な地域ではリスクが高まります。
- *10 髄膜炎菌はHibや肺炎球菌と異なり、年長児や成人でも髄膜炎の原因となります。このワクチンはわが国では2014年7月に販売許可されましたが2015年1月現在未発売です。
- *11 HPV(ヒトパピローマウイルス)は子宮頸がんの原因となるウイルスです。サーバリックス(Cervarix)とガーダシル(Gardasil)の2種類のワクチンがあり、同一種類で完了します。
- *12 多種混合ワクチン:DTaPまたはDTwPの三種混合ワクチン(*2参照)を基本として、Hib、B型肝炎(Hep)、不活化ポリオ(IPV)などの混合ワクチンが多くの国で使用されています。
- *13 MMRV:MMRワクチンと水痘生ワクチンの四種混合ワクチンです。

《その他の主な使用可能ワクチン》: 腸チフス、黄熱、小児用B型肝炎、肺炎球菌多糖体ワクチン。

《2014年7月15日版からの主な記載変更事項》

- 1) HPVワクチンの接種年齢が12~18歳とされていたましたが、11歳(6か月間隔で2回)に変更されています。